



吹奏楽部が演奏する中で募金を呼び掛ける生徒会の役員たち

平成28年熊本地震の被災地を支援しようと、下妻中学校の吹奏楽部と生徒会が、イオンモール下妻でチャリティーコンサートを開きました。東日本大震災を経験し、被災したつらさ、復興の大変さを知る生徒たちは一日も早い復興を願いながら演奏し、被災地にエールを送りました。

同部は、平成27年9月関東・東北豪雨の水害でも被災地を支援しようとチャリティーコンサートを開催。今回から生徒会の役員が加わり、訪れた保護者や買い物客などに募金の協力を呼び掛けました。

この日、音楽を通して皆さんに元気を届けたいと演奏したのは「春の道を歩こう」「世界にひとつだけの花」「地球聖歌」など5曲。全員が被災地への思いを一つにして演奏しました。

吹奏楽部長の菊地桃香さん（3年）は「全ての人に、笑顔になってもらいたいという思いで、頑張って演奏しました。被災した人たちに少しでも役に立てたら」と話していました。



東部中学校では、生徒会とJRC委員会が中心となり昇降口で募金を呼び掛け＝写真上＝、集まった10万970円を4月28日、義援金として日本赤十字社を通じて被災地に送りました。

千代川中学校は5月9日、義援金9万4,147円を



茨城新聞社に届けました。生徒会本部とボランティア委員会＝写真下＝が中心となりチラシや校内放送、昇降口で募金を呼び掛けました。

まちのわだい

Town Topics

被災地へ届け 音楽でエール
下妻中学校吹奏楽部・生徒会による
熊本地震支援チャリティーコンサート
4月30日

市内の全小中学校（小学校9校・中学校3校）で、児童生徒の交通事故を防ぎ、交通安全への意識を高めようと、交通安全教室が行われました。

児童生徒たちは、交通安全の講話や腹話術、模擬信号機を使った安全な横断歩道の渡り方、自転車の乗り方などの体験を通して、交通のルールやマナーを学びました。

交通安全教室は、茨城県警察、下妻警察署、交通安全協会、交通安全母の会、スクールサポーター、PTAなど多くの方々の協力で行われました。

茨城県では、今年に入り交通事故による死者数が増加し、全国ワースト1位という状況が続きました。交通事故を防止するために、一人一人が交通ルールを守り、早めのライト点灯、反射材の着用など交通事故防止に努めましょう。

交通ルールを守って安全に
下妻市交通安全教室
4月7日～5月6日



横断歩道を正しく渡る練習をする児童たち（4月18日、大形小学校で）

有料広告欄

瑞宝単光章

としお
石濱 敏夫さん

元茨城西南地方広域
市町村圏事務組合
消防司令長
(69歳・高道祖)



昭和41年に下妻市消防団常備分団員として採用された後、組織変更で広域消防発足を経て、平成17年に茨城西南地方広域市町村圏事務組合の消防司令長兼下妻消防署千代川分署長として退職まで40年間を消防・防災活動と火災予防に尽力されました。「この度の受章は、職場の先輩や同僚のご指導ご協力、そして家族の支えがあつての受章と深く感謝しております」。

瑞宝双光章

しょうじ
笠島 昇治さん

元陸上自衛隊
2等陸佐
(61歳・高道祖)



昭和48年に陸上自衛隊に入隊。阪神・淡路大震災や茨城県初の鳥インフルエンザ対処など計11回の災害派遣に出勤し、民生の安定に寄与され、平成22年に陸上自衛隊関東補給処（土浦市）を最後に37年間を陸上自衛官として務められました。「今後は、市の災害に強く、安全・安心なまちづくりに、いささかなりともご芳情に報いるべく微力をつくす所存でございます」。

平成28年 春の栄典

平成28年春の叙勲
において、下妻市から瑞
宝双光章に1人、瑞宝
単光章に1人の計2人
が栄誉に輝きました。

温かい善意ありがとうございます

関東鉄道株式会社から 創作絵本34冊寄贈

関東鉄道株式会社から5月12日、市内の市立・私立の各幼稚園、保育園および市立図書館の17施設に、創作絵本が計34冊寄贈されました。

この絵本は、同社の創立50周年を記念し創作されたもので、低年齢層に向けて鉄道



関東鉄道合併50周年記念
創作絵本「ゆいちゃんのおくりもの〜のりものは、たのしいな〜」B5サイズ・18
ページ(オールカラー)

やバスなどの公共交通における社会的なルールやマナーや、関わる人々のふれあいを通じて、地域の基幹輸送としての認識と理解を育みたいという願いが込められています。

有料広告欄

受賞者紹介

下妻市消防団が水防功労で3表彰

平成27年9月に市内を襲った関東・東北豪雨での積極果敢な水防活動が高く評価された下妻市消防団に、消防庁長官、国土交通省関東地方整備局長、全国水防管理団体連合会長の3者から「水防功労者表彰」が贈られ、同消防団の正副団長は5月18日、市役所を訪れ、稲葉市長に受賞を報告しました。



稲葉市長に受賞を報告した市消防団の正副団長
(左から富田団長、稲葉市長、高橋副団長、寺田副団長)

稲葉市長から豪雨災害での人命救助や水害の防止軽減活動に感謝を伝えられた富田団長は「今後も住民に信頼される消防団を目指していきたい」と話していました。